



鬼のお面を付けてダンスする園児たち

五日市保育園で節分 それぞれの鬼を退治

2月3日、五日市保育園で節分の豆まきが行われ、園児10人が参加しました。保育士から「なぜ節分では豆をまいて鬼をはらうのか」説明を受けた園児たちは、自分の心の中に住む鬼について1人ずつ発表しました。その後園児たちは豆やボールを使い「鬼は外！福は内！」と福を呼び込んだり、ダンスを踊ったりして節分の行事を楽しみました。土谷朔翔くんは「自分の中のおこりんぼう鬼とふざけ鬼を退治できた」と、心にひそむ鬼をはらったようでした。

3年ぶりに和やかに くずまき高原の夕べ

(株)岩手くずまきワインが主催する第33回くずまき高原の夕べは2月3日、グリーンテージで3年ぶりに開催されました。代表取締役社長の鈴木重男町長は「コロナ禍でもくずまきワインをご愛飲いただいていたことに感謝します」とあいさつ。会を心待ちにしていた町民ら80人が乾杯し、和やかに歓談しました。この日は東京都のホテルニューオータニで提供されている樽出し生ワインも特別にふるまわれ、参加者は普段は味わうことができない貴重なワインを楽しんでいました。



製造担当者によるワインの紹介を聞く皆さん

冬も仲間と元気に いきいきスポーツ

2月2日、町スポーツ協会が主催するいきいきスポーツ大学が社会体育館で行われ、参加者が体操や軽スポーツを楽しみました。この日の教室には13人が参加。スポーツ協会の神谷牧子さんから、運動する時は冬でも水分補給が大切であることを学び、体操で体をほぐした後はシャッフルゴルフや囲碁ボールなどの軽スポーツをわきあいあいと楽しんでいました。服部博美さん（田代）は「寒いと家でテレビを見てばかりになってしまうので、教室に参加して少しでも体を動かしたい」と話していました。



シャッフルゴルフを楽しむ参加者の皆さん

賑わい創出に向けて ワークショップ開催

2月15日、くずまき観光地域づくり協議会主催の「歩きまわりたくなるまちなか創造ワークショップ」が新町のCafeやどり木で行われ、16人が参加しました。講演会では、湊哲一さん（合同会社のしろ家守舎代表社員）が、秋田県能代市で商店街の活性化のために取り組む「のしろいち」などの事例を紹介。その後参加者がワークショップ形式でアイデアを出し合い、「まちなかに子どもが安全に遊べる空間づくりができないか」といった意見が出されていました。



活発な意見交換が行われたワークショップ



子牛用の「アブジャケット」を参加者が協力して作製

女性農業者の研修会 アブジャケット作製

盛岡地方農業農村振興協議会主催の若手女性農業者ジャンプアップ事業が2月2日にくずま～で行われ、町内の女性農業者など7人が参加しました。初めに牛伝染性リンパ腫とその原因となる吸血昆虫防除のための牛舎周辺の衛生対策について説明があり、その後アブから子牛を守る「アブジャケット」を作製。参加した市村和子さん（五日市）は「さまざまな対策を知り勉強になりました。ジャケットは今年の夏に使ってみます」と話し、有意義な研修となった様子でした。